

平成 26 年度 行政事業レビュー公開プロセス事前勉強会 議事概要【総務省】

説明案件：0002 行政評価等実施事業（総務本省）【第 1 回説明】

1. 日時：平成 26 年 5 月 29 日（木）9 時 35 分～10 時 35 分
2. 会場：総務省 11 階 会議室
3. 外部有識者：次のとおり（敬称略）。
 - 有川 博 日本大学総合科学研究所教授
 - 北大路信郷 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究教授
 - 石田 晴美 文教大学経営学部准教授・公認会計士
4. 説明者：総務省行政評価局総務課
5. 事務局：総務省行政事業レビュー推進チーム事務局（大臣官房会計課及び大臣官房政策評価広報課）
6. 陪席：内閣官房行政改革推進本部事務局
7. 概要：最初に、説明者から行政事業レビューシートに沿って説明。引き続き、事務局から論点シート（案）に沿って説明。その後、出席された外部有識者の先生方と、以下のとおり質疑応答・意見交換を実施。

意見・質問	回答
（石田先生） 当事業は行政評価局の中心業務であるため、評価を行うためには、人件費や事務費など全てのコストを併せて見るのが重要ではないか。	事務費については、本レビューシートの対象予算に含まれている。人件費や職員数といった指標が局の運営を見る上で重要というのは御指摘のとおりだが、予算上の事業単位で見るレビューシートという仕切りの上では、どうすべきか。人件費等の共通的な経費については、本レビューシートの対象外であるため、大臣官房の整理に従う。 <u>職員数は、次回示させていただきます。（⇒ 宿題事項①）</u>
（有川先生） 政策評価と行政事業レビューは密接な関係にある。政策評価法を所管する行政評価局は、両者の連携についてどのような取組を行っているか。	御指摘のとおり、政策評価と行政事業レビューは密接な関係にあり、両者の連携の取組は重要であるため、当局もそのような考えで取り組んでいる。最近では、政策評価書と行政事業レビューシートの事業名・事業番号の共通化、実施プロセスの連携確保に取り組み、全府省的に政策評価と行政事業レビューの連携を実現した。
（石田先生） 成果実績の数値の算出	勧告における所見事項の数を分母とし、そのうち各府

<p>はどのように行っているのか。勧告のうちフォローアップを行った割合のことか。</p>	<p>省において措置が行われたものの数を分子として算出している。</p>
<p>(石田先生)</p> <p>私は政策評価・独立行政法人評価委員会の委員として独立行政法人評価に携わっており、行政評価局が各府省に対し政策評価における目標の数値化を指導していると承知している。その一方で、行政評価局は自身の活動指標「政策評価の質の向上」の実績を定性的に示しているが、これを数値で示すことはできないのか。</p>	<p>政策評価においては、国民にとってわかりやすく政府の活動を示すことが大切である。その意味で、可能な限り指標を数値で示すよう各府省に働きかけているが、数値以外の指標を認めないということはしていない。特に目標管理型の政策評価については、数値であるか否かを問わず、できるだけ指標を示すように働きかけているところ。</p> <p><u>御指摘の活動指標「政策評価の質の向上」については、満足しているわけではないが、活動を適切に表現するものとして掲げている。今後ともより適切な示し方がないか試行錯誤してまいりたい（⇒ 宿題事項②）</u></p>
<p>(石田先生)</p> <p>行政評価局調査による各府省の政策や業務の改善成果を数値で示すことはできないか。</p>	<p>成果には様々なものがあるため、一つの物差しで測り積み上げを行うことが困難なこともある。また、改善を行ったことにより回避されたリスクを測る定まった方法があるとは承知しておらず、そういった意味で成果の数値化が難しいこともある。</p>
<p>(北大路先生)</p> <p>行政評価局調査の調査テーマはどのように決めているのか。</p>	<p>まず局内の各府省担当の職員が担当毎に当該府省の政策をリストアップする。その後、政府の施政方針などに現れる政府の現在の関心事項との関連や全国規模での調査の可能性などを検討し、テーマを絞っていく。その上で、政策評価・独立行政法人評価委員会の委員の意見やパブリックコメントによる国民からの意見を踏まえ、決定を行っている。</p>
<p>(北大路先生)</p> <p>社会的な注目が集まるテーマについて、的確なタイミングで調査を行い、ア</p>	<p>そのような取組に努力しているが、企画や調査に時間がかかるため、タイミングがずれてしまう面がある。それでも、例えば本年の「行政評価等プログラム」では、</p>

<p>ピールすることはできないか。</p>	<p>J R 北海道の事故を受け鉄道施設の保全対策に関する調査を行う予定である。</p>
<p>(有川先生) 調査を深掘りするほど、短期では改善できない指摘が多くなると考える。成果実績が落ちているのは、そのためか。</p>	<p>レビューシート上の数値は、確かに漸減しているが、有意な傾向としては認識していない。調査を深く行うほど短期的に改善できない指摘が多くなるという御指摘は、そのとおりと考える。ただ実務では、所見を示す際に各府省が改善に要する時間を特に考慮していないところ。勧告を行うのみでは改善措置が進まないことから、その後のフォローが大切だと考えている。シートの成果指標は、このフォローの目標となり、結果的に勧告の実効性を高めるのに役立つと考えている。</p>
<p>(有川先生) 成果実績の時点について、勧告から1年半後としているが、適切なのか。</p>	<p>現在勧告から半年後と1年半後にフォローアップを行っているが、分権や民営化などにより、行政が指導を行えば成果がすぐに上がる時代ではなくなった。そのため、今後更なるフォローアップを行うことを考えている。</p>
<p>(有川先生) <u>成果実績を数値で示すだけでは誤解を招く。様々な調査を行ったことがわかるように定性的な表現による補足を行うべきと考える。(⇒ 宿題事項③)</u></p>	<p>所見を行った事項は何もせずに改善がなされるものではないため、フォローアップを行い各府省に働きかけた成果の指標として数値を掲げているが、完全な指標ではないと認識している。</p>
<p>(石田先生) <u>行政評価局調査について、どのようなテーマに関しどのような勧告を行ったのか、レビューシート上でも明らかにすべきである。(⇒ 宿題事項③)</u></p>	
<p>(石田先生) <u>行政相談について、行政相談の処理にかかった時間の効率性、満足度などを教えていただきたい。(⇒</u></p>	<p>次回示させていただく。</p>

宿題事項④)	
--------	--

8. 宿題事項：終了後、説明者が次回の事前勉強会において説明すべきとされた事項。
- ① 行政評価局の職員数の推移。
 - ② 定性的とされた指標を数値で示すことについての行政評価局の考え。
 - ③ レビューシートにおける、どのような調査テーマに取り組んでいるのかの補足。
 - ④ 行政相談について、行政相談の処理にかかった時間の効率性、満足度等の指標。